

東電福島原発事故 自己調査報告

細野豪志著、開沼博編（徳間書店・1870円）

東日本大震災当時、首相補佐官、原発事故担当相として東京電力福島第1原発の事故対応にあたった細野豪志元環境相が社会学者の開沼博氏とともに当時を検証した。

1章では田中俊一・元原子力委員会委員長ら当時の関係者と「最前線」の様子を振りかえり、2章では福島県大熊町の渡辺利綱前町長ら地元の人たちと会い、福島の復興の課題について語り合った。

最終章の3章では11年から12年にかけて福島の復興をスタートさせた際に細野氏関わったさまざまな決断について、結果をふまえてあらた

めて可否を考えた。原発処理水については海洋放出をすべきだとし、中間貯蔵施設の除染土の再生利用も訴えている。

細野氏は「過去の私自身が行った政治決断の責任を問う作業でもあり、当初考えていた以上に苦痛を伴うものとなった」としている。事故当時の関係者の責任を追及するといふよりは、次々と迫られた判断が10年後の現在にどう影響しているかを政治家の目でもう一度考えたものだ。政策決定の中枢にいた当事者の10年後の「自己調査」であり、それだけに重みがある。

（須）